

北見赤十字病院(認知症疾患医療センター)市民公開講座



認知症になっても 安心してこの街で暮らしたい



開 催 報 告

日時 平成28年1月23日(土) 13:00~15:00(会場 12:30~)

会場 北見赤十字病院 多目的ホール「ミント」

今回、市民公開講座を開催致しました。

当日は225名の市民・関係者の皆様にご来場いただき盛大に終えることができました。

ご協力ありがとうございました。以下講座の内容を報告致します。

1. 講演 「つたえる・つながる・ささえる ～ 社会全体で支える認知症ネットワーク～」

・砂川市立病院 精神科 認知症疾患医療センター長 内海久美子先生

講演では内海久美子先生よりアルツハイマー型認知症の症状や砂川市における認知症当事者支援の事例を紹介していただきました。NPO法人中空知・地域で認知症を支える会を始めとし、ボランティア・町内会・医療機関等がネットワークを構築し、認知症当事者に対するきめ細やかな支援の実践についてお聞きすることができました。



また、砂川市では独居高齢者の見守りのため、町内会等に個人情報を提供できる条例が制定されており、初期集中支援チームによる支援も展開されています。

「認知症は恥ずかしい病気ではない。周囲に助けを求められることが重要。家族だけでなく、地域に支えてもらう病気である事を知って欲しい。」

「一人ひとりができることを行い、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりから一歩進んで、安心して認知症になれるまちづくりを進めていきましょう」と、話されていました。

2. パネルディスカッション「認知症になっても安心して暮らせる街」～北見での取り組み～

- ・北見市保健福祉部介護福祉課 介護予防係長 今野 夏子氏
- ・高齢者相談支援センター北部 管理者 福井 志乃氏
- ・道東脳神経外科病院 ソーシャルワーク課 課長 山崎 章氏
- ・グループホームいきいき 管理者 武田 学氏

パネルディスカッションでは、行政・相談機関・医療機関・グループホームの各分野から北見市における認知症支援の現状をお聞きすることができました。

今野氏からは、北見市による認知症サポーターのいるお店登録事業、いきいきふれあいサロンや行方不明者搜索模擬訓練等の活動が紹介されました。

また、福井氏からは、高齢者相談支援センター北部関わった単身生活にて認知症を発症した方への事例、特に公的資源に加え、友人等を交え非公的マンパワーを巻きこんでの支援体制作りのお話でした。

山崎氏からは、もの忘れに関する医療機関受診の際、戸惑いや不安を感じる場合や、本人や家族が受診の必要性を感じない場合など、受診がスムーズに進まない場合も多々あるため、困った場合はぜひ、医療ソーシャルワーカーや高齢者相談支援センターへ相談をとのお話がありました。

それらを受け、武田氏からは入居者の笑顔の写真と共に、グループホーム（認知症対応型共同生活介護）の実際について説明がありました。活動内容から費用や、入居先を探す際のポイント等具体的なお話をお聞きすることができました。



以下、参加者の声です。

- ・色々な話しが聞けて良かった。勉強になった。
- ・大変良い講座だと思った。
- ・砂川市の初期集中支援が素晴らしい。
- ・具体的対応が勉強になった。砂川市の取り組みを、北見にも早く取り入れて欲しい。

参加された皆様のアンケートからも認知症の診断・治療や地域支援などについての関心の高さがうかがえました。

この度、会場の都合で人数に限りがあり、ご参加いただけなかった皆様には大変ご迷惑をお掛けしました。

今後も継続することが必要と考えております。市民の皆様の声を今後の活動に反映しつつ、講演会・研修会等で情報発信していきたいと思っております。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

（事務局 伊藤 記）